

はじめに

コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys) は、情報処理学会システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会が主催するシンポジウムです。1987年に第1回が開催されて以来、コンピュータシステムに関する最新の研究成果が集まる場として重要な役割を果たしてきました。本シンポジウムのスコープは、オペレーティング・システムやミドルウェア、仮想化技術、ファイルシステム、組込みシステム、ユビキタスシステム、実時間システム、ディペンダブルシステム、モバイルコンピューティング、Peer-to-Peer技術、セキュアコンピューティング、インターネット基盤技術、並列分散システム、クラウド技術など、システムソフトウェア全般の多岐にわたる内容を含んでいます。

今年の「第34回コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys 2022)」は、対面開催とオンラインのハイブリッド形式で開催されます。発表募集に際しては、ComSys 2022では、ComSys2021で行った投稿カテゴリとメタデータ設定のシンプル化を踏襲し、発表申し込みの際に、論文の有無とコメントフィードバックの有無を選択する形で発表募集を行いました。コメントフィードバックは査読ではなく、ComSysでの発表後に研究内容を発展させることを目的とした前向きなコメントやアドバイスを提供するものであり、通常の研究発表会にはない貴重な機会を提供しています。また、従来通り、ポスター・デモ発表も実施します。

ComSys 2022では12件の発表申し込みがあり、そのうち10件は論文がある発表でした。ほとんどの論文投稿者はコメントフィードバック有りを希望しており、コメントフィードバックには高い需要があることがうかがえます。セッション構成は、セキュリティ、アルゴリズム、評価、実装といった幅広い分野の内容を含む内容となっており、シンポジウム当日の活発な議論が期待されます。招待講演は、国立情報学研究所の石川裕先生による「HPC分野におけるシステムソフトウェア研究」と、University of EdinburghのMichio Honda先生による「Host design patterns of datacenter networking and international academic career」の2件となっており、どちらも非常に興味深い内容となっています。また、システム分野のトップカンファレンス・ジャーナルに採択された論文を紹介する凱旋招待講演も引き続き企画しており、コンピュータシステムに興味がある方々にとって非常に魅力がある内容になっていると思います。

OSやシステムソフトウェア分野の発展は、新たなアプリケーションを産み出し、新しいハードウェアプラットフォームを活かしていくという意味で、大きな社会的使命を担っております。そのためにも、本シンポジウムから次世代のシステムソフトウェアを生み出せればと考えております。また、システムソフトウェアの研究開発、産学連携、人材発掘と育成、人的交流などを今後も推進していければと考えております。本研究会およびシンポジウムがさらに発展するよう、今後とも皆様のご支援・ご協力を賜れば幸いです。

2022年12月
第34回コンピュータシステム・シンポジウム 実行委員長
品川 高廣 (東京大学)
第34回コンピュータシステム・シンポジウム 副実行委員長
松原 克弥 (公立はこだて未来大学)